



## CONTENTS

## Top Opinion

2022年度のプラットフォーム活動について

未来構想PF理事・事務局長 大口 豊

1

## VOICE

目指すは鎌倉！

J R東日本コンサルタンツ(株) 吉住 弥華

2

## たすきリレー

新潟県中越地震により被災した上越線トンネルの復旧（体験談）

J R東日本コンサルタンツ(株) 岡野 法之

3

## 今月の国際比較データ

4

## PF書店／私のインフラ巡礼／編集後記

5

## Top Opinion

## 2022年度のプラットフォーム活動について

未来構想PF理事・事務局長 大口 豊

去る6月8日、当プラットフォームの定時総会が開催され、2022年度の事業計画や役員改選について決議が行われました。前回のPF通信にも事業計画のあらましを掲載いただいておりますが、2020年度から2021年度にかけては度重なる新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令を受けて、人が集いあう形態の多くの活動が中止や延期を余儀なくされました。発足10年を経て体制を一新した当会の前年度活動は、切歯腕の一年だったと感じています。



今年度に入ってから種々の制約も解けつつあり、調査研究ワークショップや見学会など、ここ2年中断していた、広く参加者を募っての活動の再開も念頭に、「ポストコロナを迎えてのプラットフォーム活動の展開」を基本方針として、事業計画を作りました。またこの間、まちや交通を取り巻く環境においても、様々な課題や切り口が顕在化して来ており、例えば我が国における過去の高度成長から少子高齢化を伴った成熟社会への変遷や、地球環境問題への対応ならびに温暖化に伴う災害の激甚化への対策、都市、地域の再生と活性化などの観点からも、従前以上の知恵や工夫が必要となってきたと考えられます。

一方でこれらに対応するツールとしてのICTやデジタルトランスフォーメーションの活用、リモートワークやワーケーション等新たな流れを伴った働き方の多様化、ワークライフバランスの重視など、当会がテーマとする「まち」「交通」「鉄道」を構想し、議論するうえにおいても、多様かつ多面的な視点や価値観が重要になっていると思われます。

感染状況も落ち着きつつあると思われた矢先、第七波とも目される再度の感染増加の兆候も現れ始めました。コロナウイルスは簡単に根絶されるものではなく、今しばらくは増減の波が継続するかも知れません。行政や社会の対応状況も良く注視しながら、今後の活動を活性化させていきたいと考えています。



## 私のインフラ巡礼



～伊豆大島の地層大切断面～

伊豆大島で見られる美しい地層断面

(JR東日本コンサルタンツ 横内啓隆さん)

未来構想PFのホームページ  
(HP) をご覧ください。会員はもちろん社会に大きく  
開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)



## VOICE

## 目指すは鎌倉！

J R東日本コンサルタンツ（株） 吉住 弥華

## 1. はじめに

紫陽花咲き誇る6月中旬、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の影響もあり、鎌倉観光に行ってみました。鎌倉の人気観光スポットはご周知の通りですが、ここでは少し違った観点で、以前「プラタモリ」で放送された内容を参考に、鎌倉観光についてご紹介させていただきます。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、これから鎌倉観光される際の一助になれば幸いです。

## 2. 鎌倉観光のはじまり

鎌倉観光の仕掛け人は、水戸黄門として知られる徳川光圀と言われています。諸国漫遊したと思われる光圀公ですが、実は遠出したのは鎌倉だけだったそうです。その時に作られた資料をもとに多くの旅行案内が作られ、人気の観光地になったと言われています。

## 3. 極楽寺切通し

江戸時代、江ノ島参拝の帰りに鎌倉へ立ち寄るのが人気の観光ルートだったそうです。山に囲まれた鎌倉には、山を切り崩して通りやくした7つの有名な切通しがあり、西南端に位置する極楽寺切通しは、



写真①



写真②



写真③

江ノ島と鎌倉を往来する定番のルートでした。現在は比較的平坦な道路が整備されていますが、当初は写真①に示すような急な坂道だったそうです。少しずつ坂が切り下げられていく度に延伸されたことが想像される階段は、最大の難所であった極楽寺切通しの痕跡となっています。階段を登り切った先は、由比ヶ浜を眺望できる絶景スポットになっています（写真②）。当時の観光客も、この美しい景色を見て一息つき、気持ちを新たに鎌倉のまちへ入っていったことと思われます。

極楽寺切通しを抜けた先には、観光客の疲れを癒す茶屋が並んでいました。写真③は江戸時代創業の和菓子屋で、当時人気だった名物の「力餅」が今も味わえます。

## 4. 高德院

鎌倉観光の定番スポットの一つである高德院の大仏は、作られた当時の記録がほとんど残っておらず、謎も多いそうです。現在は野ざらしの大仏ですが、当初は奈良の大仏と同じように「大仏殿」の中にありました。その痕跡が大仏の周囲にある大きな石です（写真④）。今では観光客がベンチのように座っていますが、実は大仏殿の柱を支えた礎石だったということが分かっています。



写真④

## 5. おわりに

大河ドラマの影響もあり、鎌倉観光に関するテレビや雑誌の特集を最近よく目にしますが、その中では特集されていないと思われる内容について、簡単にご紹介させていただきました。

コロナ禍の厳しい状況が続いておりますが、鎌倉に限らず、昔から多くの人々に親しまれている観光地が今後も発展し続けることを願います。



出典：国土地理院





## たすきリレー

新潟県中越地震により被災した上越線トンネルの復旧（体験談）

J R東日本コンサルタンツ（株） 岡野 法之

平成16年（2004年）新潟県中越地震が発生したのは、私がJR東日本上信越工事事務所長野原工事区の助役として出向した年の10月23日17時56分であった。その日は土曜日で、工事区職員と吾妻線付替トンネル工事を担当していた3JVとの親睦ソフトボール大会があり、表彰式の中に大きな揺れに襲われた。

すぐにテレビをつけると、アナウンサーが興奮を抑えきれない様子で、「新潟県中越地方で震度7の揺れを観測、大きな被害が出ている模様。」と繰り返すのを聞き、すぐに解散し帰宅した。

翌未明、現地調査のため上信越工事事務所に参集するように指示があり、身支度をして高崎へ。しかし、ダイヤが大幅に乱れており、到着したのは昼頃だったであろうか。

明かり班とトンネル班に分かれ準備を済ませたが、その後、現地情報が思うように入らず、時間だけが過ぎていった。

日が暮れ始めたころ、これ以上待っても状況が変わる気配なく、宿泊の手配ができたので、明朝からの調査に備え現地に向け出発した。到着したビジネスホテルには、壁に何本もの大きなひび割れが入っており、大きな余震のたびに生きた心地がしなかった。

翌朝から上越新幹線のトンネル調査へ。震度5弱を超える余震が頻発する中、トンネルに入ると、嘘のように揺れを感じない。しかし、「ゴー、ゴー」と聞こえてくる山鳴りが不気味であった。足を進めるにつれ、被害が大きくなり、魚沼トンネルにおける覆工コンクリートの崩落を見たときはショックを受けた。

覆工アーチ部の崩落<sup>1)</sup>

現地調査を終え、一旦工事区業務に戻るも、数日後に上信越工事事務所が新幹線のトンネルと、上越線の和南津トンネル（写真参照）、新榎峠トンネルの復旧を担当することになった。私は上越線の2トンネルを担当すべく、助勤として招集された。

2か月前の本コラムを執筆された渡部保利 上信越工事事務所次長（当時）と私、そして、東京工事事務所から派遣された助勤者2名（2週間ごとに交代）の4名でその任にあたった。

その後の約2か月、幸いにして暖冬で天候に恵まれ、非常に心配していた雪による工事の遅れは全くなかった。結果として上越新幹線より1日早い12月27日に開通させることができ、雪が舞い降る中、初列車を見送ったときは、喜びもひとしおであった。

起点方坑口部の雪覆いのずれ<sup>1)</sup>に加筆

一昔前は「天災は忘れたころにやってくる」とよく言ったものだが、今では「天災は忘れる前にやってくる」どころか「天災は次から次へとやってくる」時代に。業務にあたっては、最大限の防災と、復旧を念頭に置いた減災を常に念頭に置きたい。

※ 何分、20年近く前のことゆえ、記憶が曖昧なところがあり、事実と異なるところがあるかもしれませんが、ご勘弁を。

## 引用文献

1) 東日本旅客鉄道(株)：新潟県中越地震鉄道トンネル被害原因調査等検討会 報告書，平成18年3月

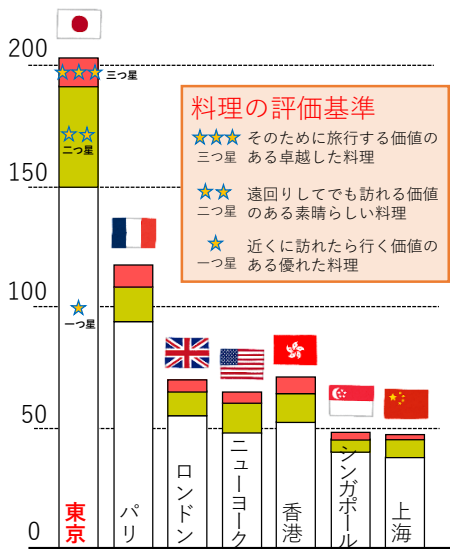


今月の国際比較データ



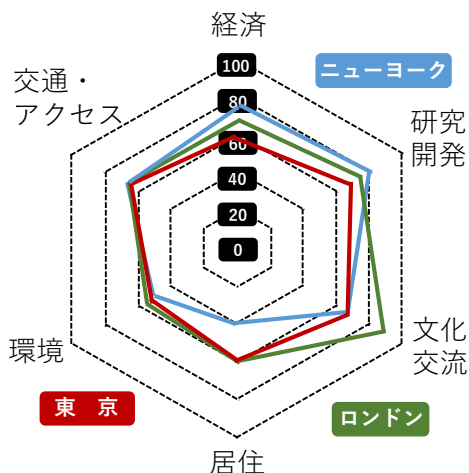
今月は世界第3位の都市である「東京」の立ち位置と我が国における自然保護区域の割合について紹介します。

●ミシュランの星を獲得したレストラン数  
～実は世界一のグルメ都市「東京」～



出所：東京は「ミシュランガイド2022」  
その他の都市はMichelin Guide

●ロンドン、ニューヨークを追う東京  
(分野別に見た偏差値)

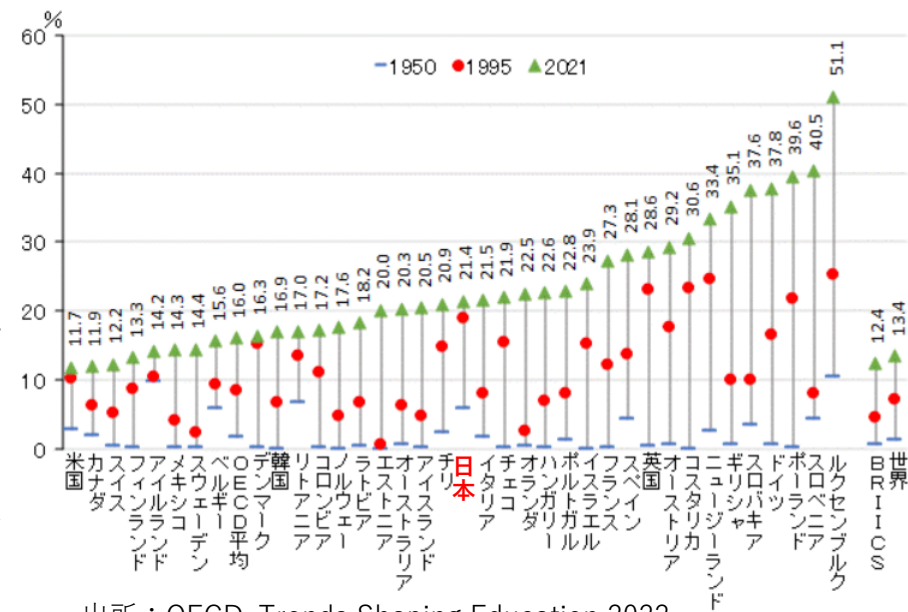


出所：世界の都市総合ランキング

たレストランの数は東京が203でパリ（118）の1.7倍となっています。一方、ロンドンの強みは「文化・交流」、ニューヨークの強みは「経済」「研究・開発」にあり、東京には圧倒的な強みがなく、何か世界一になれる分野を持たなければさらなる上位は望めない状況にあります。

●自然保護区域（陸地）の対総土地面積

自然保護区域（陸地）の対総土地面積（1950年、1995年、2021年）



出所：OECD, Trends Shaping Education 2022

森記念財団都市戦略研究所が2018年から毎年発表している「世界の都市総合ランキング」。世界の主要48都市のうち、東京は2016年にパリを抜いて以来、3位を維持しています。同ランキングは、①経済②研究・開発③文化・交流④居住⑤環境⑥交通・アクセスの6分野70指標のスコア合計点で決まります。東京の場合、ハイスコアが目立つのが「食事の魅力」や「飲食店の多さ」といったグルメに関する指標です。世界のレストランを評価する仏ミシュランの星を獲得し

自然環境重視の世界的傾向から、自然保護エリアの面積シェアは世界全体で2021年に13.4%と1割を越えています。1995年には7.1%でしたので、この四半世紀で倍増しています。

日本は21.4%とOECDの中ではほぼ中位水準にあります。1950年、1995年と比較すると1995年までに現在の保護エリアはほぼ指定し終わっており、それ以後の指定は少ない状況にあります（もともと日本での割合が高かったところに、世界が追い付いてきた感じでしょうか）。





PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！



私のインフラ巡礼



「伊豆大島の地層大切断面」

(東京都大島町)

## ① mRNAワクチンの衝撃 (ジョー・ミラーほか著 早川書房)

開発物語に見る成功の本質。キーワードは「mRNA」(メッセンジャーRNA)。私たちの細胞すべてにあるこの分子の特性を活かして、ファイザー製のコロナワクチンとして世界中に普及したことに大きく貢献したことは記憶に新しい。ドイツの創薬ベンチャー「ビオンテック」創業者のウール・シャヒンとエズレム・シュレヒ夫妻が従来はガン免疫療法のツールとして用いていたmRNAをコロナウイルスの感染拡大を防ぐべくファイザー製コロナワクチンとしてスピード感を持って完成させたプロセスがわかりやすく展開されており、読めばワクチン接種後の副反応程度は我慢が必要な一冊である。

## ② キリンを作った男 (永井隆著 プレジデント社)

皆さんはキリンビールのヒットメーカー前田仁をご存じだろうか? 「一番搾り」「淡麗」「氷結」を生んだ稀代のヒットメーカーでありながら、社内政治的には不遇だった前田仁の初の評伝。王者キリンビールの足枷となった過去の成功体験と闘い、キリンビールの戦後最大のヒット商品となった「一番搾り」を開発。にもかかわらず左遷され、本社に再び舞い戻って最年少のマーケティング部長としてキリンビールを窮地から救ったヒーローが、何を見つめ、何を部下に語っていたのか。関係者への丹念な取材をもとに書き下ろされた、読み応えのあるノンフィクションな人物伝である。

## ③ 砂まみれの名将 (加藤弘士著 新潮社)

言わずと知れた名選手であり名将であった野村克也。ヤクルト、阪神、楽天の監督を務めたことは周知の事実であるが、サッチー騒動で阪神の監督を退任した後に社会人チーム(シダックス)の監督を3年間務めていたことが記憶に残っている方も多くいるのではないだろうか。ただ、その時期の苦労を語った書籍は皆無であったが、この3年間を詳細に追ったのが「砂まみれの名将―野村克也の1140日―」。シダックスの創業者との篤い信頼関係、都市対抗野球での苦い采配ミス、そして、選手のプロ入りをめぐる葛藤や球界再編騒動の裏舞台。この時期について聞かれた際、野村氏は「あの頃が一番楽しかった」と答えたという。野球好きには(野球好きでなくても?) たまらない内容である。



島の南西部に高さ70メートル、幅600メートルに渡り見られる美しい地層断面で、堆積物が幾重にも重なり見事な縞模様を作り出している。道路工事中に偶然見つかったもので、過去の噴火歴がここから読み取れることから自然遺産の価値を有するとし、保存がされている。

黒い部分が噴火時の火山灰や火山噴出物の層、薄茶色の部分は噴火していない時期に堆積した風化火山灰・腐植土等の層で、縞模様一つで噴火～堆積の1サイクルとなる。黒い層が厚ければ激しい噴火があった時期で、薄茶色の層が厚ければ噴火までのサイクルが長かったといえ、噴火が繰り返された伊豆大島の象徴的スポットと言える。

(JR東日本コンサルタンツ(株) 横内啓隆さん)

編集後記



去る7月1日に山形新幹線が開業して30年が経ちました。今では「山形新幹線=つばさ」が定着しましたが、山形県民(特に山形駅以南の県民)からすると、上野～山形のL特急は「やまばと」の印象・愛着が強く、上野～山形～秋田のL特急の名称だった「つばさ」の名前を山形新幹線で使ってしまったのか? と勝手ながら個人的に罪悪感に苛まれておりました。ともあれ、福島アプローチに板谷峠の新トンネルなど、まだまだ進化する山形新幹線にこれからも注目です。(A.I)

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先: 未来構想 PF 事務局 大口

電話: 03-4334-8157

メール: [info@miraikoso.or.jp](mailto:info@miraikoso.or.jp)

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28